

へい和の心

石垣市立宮良小学校 三年 半 嶺 和 歩

「これは、オレのだよ。」

「これはオレのだよ。かってにつかうな。」

ぼくと弟は、毎日のようにけんかをする。はじめはなんでもないちいさなことからはじまり、きずつけるようなやな言葉を言い、あとは、なぐり合いの大きなけんかになることがある。

そんなときは、お父さんやお母さんにしかられてしまう。

「二人ともやさしさがたりない。話し合って、仲なおりしなさい。」
と言われる。

「おまえのせいだからな。」

「そっちがわるいんだよ。」

とまたけんかになってしまう。

それを見ていたお母さんは、おこっていた顔からかなしい顔になって、

「兄弟は、仲よくたすけ合ってほしいのに、なんでおたがいにも思いやりをもつことができないの。」

といってむかしおばあちゃんから聞いた話をおしえてくれた。

せんそうのとき、ぼくと同じくらいのお兄ちゃんが妹をおんぶして何日も何日も歩いてにげたこと。

食べる物もなかったけど、家族みんなで分け合って食べた

こと。お兄ちゃんは、妹のために自分はいらないといってがまんしたこと。

せんそうの中を家族みんなで生きていくために思い合いい、きょう力し合っていたこと。

せんそうがおわっても、くるしい中を一生けんめい生きてきたことを話してくれた。

ぼくは、その話をきいて自分もたいへんなのに妹のことをしてあげるお兄ちゃんはつよくてやさしいお兄ちゃんだなーと思った。

ぼくは、せんそうのないへい和なときにうまれておなかいっぱいにごはんがたべれる。ゆっくりねむれることもできる。いききたいところがあつたら車でのせてもらっていくことができる。

それだけでとってもしあわせなことなのに、おやつをうばいあったり、車にのるいちでけんかをしたりするぼくは、はずかしいことだと思った。

ぼくは、けんかをしないようにしたい。自分のことのように、だれかのことも考えていきたい。そうすれば、みんなしあわせな毎日をおくることができると思う。

ぼくの名前は、へい和の和という字がつかわれている。「和をもって一步一步、歩んでほしい」というねがいをこめてつけた名前だとお母さんがおしえてくれた。

ぼくは、みんながしあわせになれるようにぼくの和の力でへい和なせかいにしていきたい。